

# 昆布森小グランドデザイン

本校は【地域とともにある学校づくり】を目指し、へき地複式校の強みを活かす【6年間の子どもの育ちを見とおした学びの実践】に、取り組んでいきます。

## 《釧路町教育行政執行方針の重点》

- ①【釧路町大好きっ子の育成】～町の方針の《郷土の発展はひとづくりから》を実現
- ②【ふるさと教育の推進】～地域の課題を発見し、仲間と協働しながら解決を目指す。
- ③【自己肯定感の育成】～自分が学校で認められていることを実感できる体制の構築

## 《昆布森・知方学地区【CS】の目指す子ども像》

- ふるさとを愛し 自ら学び 心豊かに 未来へ向かって たくましく生きる子ども
- 進んで学ぶ人～確かな学力～
  - 感謝と思いやりの心をもつ人～豊かな人間性～
  - 健やかな心と体をもつ人～最後までやりぬく意志と体～
  - 地域・社会に貢献する人～地域を誇りに思う心と態度～

## 《昆布森小 学校教育目標》

- よく考え進んで学習する子
- 明るく思いやりのある子
- **【今年度 取組重点項目】**
- 体をきたえる元気な子
- 力いっぱい最後までやりぬく子

## 《期待する学校の姿》 ～ 昨年度の学校評価意見集約結果より ～

- ① 児童…みんな笑顔で元気よく学校を楽しんで、みんなの心が優しい学校。
- ② 保護者…思いやりのある広い心で接して、友達の悩みに早く気付いてあげられて、助け合えるような学校。
- ③ 教職員…学校で学ぶ楽しさを感じとり、自分で考えながら主体的に行動し、自分の能力を高められるような学校。

## 《目指す子ども像》 ①【自ら進んで楽しく学ぶ】ことができる子ども ②【思いやりの心で接す】ことができる子ども ③【毎日規則正しく生活する】ことができる子ども

- ### 《目指す学校像》
- ① 児童にとって、みんなが【学校に来ることが楽しい】と思えて、自己肯定感を高められる学校。
  - ② 教職員にとって、教職員が、子ども達の成長のために、一生懸命努力することができる学校。
  - ③ 保護者にとって、保護者が、安心して子どもを学校に預けて、任せることができる学校。
  - ④ 地域にとって、地域の方が、気軽に学校へ立ち寄り、惜しみなく協力が得られるような学校。

## A 児童が主体的に考えて行動できる能力の育成

- ①授業で主体的に課題解決に取り組み、解決内容の発表場面を確保。
- ②児童が考えたアイデアを、行事内容に反映させるための工夫。
- ③児童が委員会活動を企画し、児童により進行させる体制を整備。

## B 児童が学校生活を楽しんで思いやりの心を育む

- ①教育活動で、児童同士のコミュニケーションを深める場を設定。
- ②支持的風土のある学級づくりを目指し、望ましい信頼関係を構築。
- ③縦割り班活動で、上級生が下級生に教えてつなげる伝統を守る。

## C 困り感のある児童に対する特別支援教育の充実

- ①異学年の複式授業における、特別支援学級の適切な指導の在り方。
- ②特別支援学級担任（教頭）の負担軽減⇒校長が教頭業務を担う。
- ③特別支援担任と交流学級担任の日常の連携・児童同士の交流

# 令和7年度 昆布森小 キャッチフレーズ 《あいことば》 = 【昆布森がすき！ 学校がすき！ 自分がすき！】

『釧路町大好きっ子』の育成には、まずは自分が住んでいる昆布森を好きになることが不可欠である。【昆布森を好きになって誇りに思い、学校を好きになって活動することが楽しく、自分を好きになって自己肯定感が高い児童を育みたい。】との思いから設定した。【すき！】をキーワードに、子ども達にも日常の学校生活等で、口にしてほしい思いが込められている。

## 家庭で

- ① 基本的な生活習慣の基盤形成 ⇒ 早寝・早起き・朝ご飯・朝ウンチ
- ② 善悪の判断能力の育成 ⇒ 家庭で決めたSNS等のルールを守る
- ③ 多様な経験を与える場 ⇒ 各清掃・皿洗い・米とぎ・昆布手洗い
- ④ 家庭学習の習慣化 ⇒ 保護者との連携・開始時間と時間帯の設定

人として生きるために必要な力を構築していくには、【人間力の育成】が必要。

そのために学校課題の【主体的に考えて行動できて、新たな発想を生み出すことのできる児童の育成】に尽力する。

## 地域で

- ① 児童が安心して活動できる安全な地域 ⇒ 通学路の歩道の整備
- ② 児童の育ちの見守り ⇒ 登下校の交通安全運動・駐在所と連携
- ③ 危険な行動を見かけた場合 ⇒ 毅然と叱る・家庭や学校に連絡
- ④ 地域体験 ⇒ 児童が地域・町内行事等に積極的に参加して交流

## 学校の役割

- 1 確かな学力を育む⇒ ①複式授業での間接指導の習得⇒自ら主体的に学ぶ力の育成 ②学習規律習慣化の徹底 ③家庭学習における保護者との連携強化 ④学力向上プランによる授業改善 ⑤日常的スキルアップ＝教師間の互いの授業参観→授業後の協議・指導方法の相談 ⑥知方学小と合同研修…学習を児童に委ねる授業+リーダー学習の場面を設定
- 2 健やかな体の育成⇒ ①体力向上プラン改善策による実践 ②授業最初の体ほぐしの定着 ③保健指導・感染症対策の充実 ④食に関する指導…町栄養教諭との連携 ⑤発達段階に応じた性に関する指導の小中連携 ⑥基本的な生活習慣の定着…『メディアコントロールデー』での検証 ⑦電子メディア活用…iPadの家庭の持ち帰り・ルール遵守
- 3 人間関係力の調和⇒ ①笑顔で挨拶+場に応じた言葉遣いの習慣化 ②様々な人々と積極的にコミュニケーションを図り交流を深める…互いの信頼関係を構築 ③昆布森・釧路町行事への積極的な参加…地域を誇りに思う心を育む ④活気あふれる職場環境…自分の考えを発言できる心理的安全性を確保 ⑤働き方改革…教職員の各業務分担の平準化
- 4 豊かな心の育成 ⇒ ①思いやりの心を育む道徳の実践 ②児童会の主体的な取組…オアシス戦隊コンプレッジャー・いじめ根絶1学校1運動・こんぶゆらゆら体操・昆小美術館等 ③読書活動の工夫…ピアノ演奏を取り入れた読み聞かせ ④学校いじめ基本方針の改訂⇒校内いじめ委員会の組織活性化 ⑤人権・キャリア教育の継続…外部講師活用
- 5 家庭・地域の連携⇒ ①地域参観日の啓発 ②地域コーディネーターを窓口とした積極的な外部講師の活用 ③地域の保育所・中学校と連携を深めたふるさと学習の充実 ④校舎内外の環境整備…遊具等の安全利用 ⑤津波想定避難訓練・防災教育の充実…自分の命を自分で守る行動 ⑥昆小だより・メール・HP等で積極的な学校情報発信…見える化を

★ 沿革史 … 明治12年9月24日、釧路郡米町公立日進学校（現在の釧路市立釧路小学校）の分校として開校し、昭和30年1月の町村併合により、釧路村立昆布森小学校と改称した。その後、昭和55年4月の町制施行により、現在の釧路町立昆布森小学校と改称し、令和7年度で開校146年目を迎えた。児童数＝13名・学級数＝4 【令和7年4月1日現在】

